なになに？ ハイブリッド・リハビリテーション!!

Hybrid Rehabilitation 第二回目 装具療法

最新技術や機器等を複合して利用するリハビリのことです。異なったリハビリ要素を組合わせることによる相乗効果や患者様の意欲向上が期待でき、リハビリを効果的に進めることができます。今回のハイブリッドリハは装具療法ついてご紹介いたします。

入院時から治療用装具として積極的に使用（16種類の装具を配備）

1. 下肢筋力低下の予防
2. 心肺機能低下の予防
3. 廃用症候群の予防
4. 機能回復の促進
5. 早期の歩行獲得
6. 早期の日常生活動作向上
7. 早期社会復帰

※『装具』を用いた早期歩行訓練は「脳卒中治療ガイドライン」で強く推奨されています。（グレードA）。

※当院オリジナルの下肢装具アルゴリズムを使用して最適な装具を選定します。

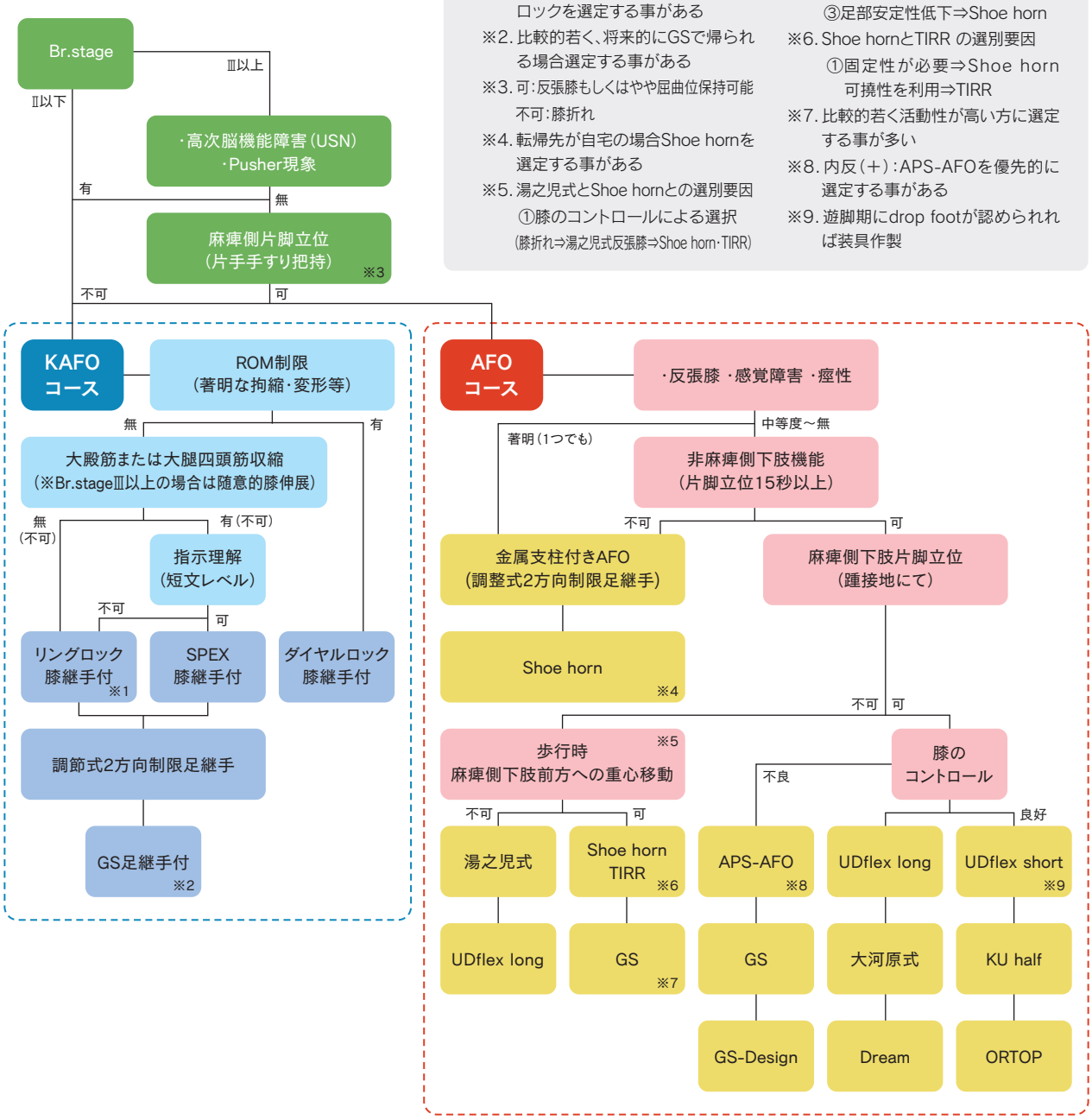
下肢装具療法

脳卒中や事故で下肢が麻痺し、歩けない状態が続くと、ベッド臥床や車いす生活を余儀なくされ、結果的には筋力低下や合併症などの廃用症候群をきたしやすくなります。入院時より歩行練習を行い、早い段階で歩けるようになれば、ベッドから離れて食事やトイレ、入浴ができるようになり、廃用症候群を予防できます。

当院では、16種類の下肢装具を配備し、当院オリジナルの下肢装具アルゴリズム（左図）を使用して最適な装具を選定し、入院早期から歩行練習を行っています。下肢装具を発症早期から積極的に使用することにより、機能回復促進や筋力低下、心肺機能低下を予防して早期の日常生活動作の向上と社会復帰を目指しています。

《脳卒中治療ガイドライン》においても下肢装具を用いた早期歩行訓練は強く推奨されています。（グレードA）

脳卒中下肢装具アルゴリズム



※1. 比較的早期回復が予想：リングロックを選定する事がある
※2. 比較的若く、将来的にGSで帰られる場合選定する事がある
※3. 可：反張膝もしくはやや屈曲位保持可能
不可：膝折れ
※4. 転帰先が自宅の場合Shoe hornを選定する事がある
※5. 湯之児式とShoe hornとの選別要因
①膝のコントロールによる選択
（膝折れ⇒湯之児式反張膝⇒Shoe horn・TIRR）
②一人で装具装着困難⇒湯之児式
③足部安定性低下⇒Shoe horn
※6. Shoe hornとTIRR の選別要因
①固定性が必要⇒Shoe horn
可撓性を利用⇒TIRR
※7. 比較的若く活動性が高い方に選定する事が多い
※8. 内反（＋）：APS-AFOを優先的に選定する事がある
※9. 遊脚期にdrop footが認められれば装具作製

PROJECT STAFF

表紙…撮影：伊藤写真事務所、Model：田島 彩夏（栄養管理部）
1.巻頭特集 震災の中での出会い：執筆：渡邉淳永（総合診療科・地域医療部）
3.たくさんのご支援誠にありがとうございます。…企画構成 坂本和歌子（総務課） 文：院長 古閑博明
5.おしごと紹介スペシャル…執筆：瀬形建喜（整形外科）・冨口若菜（リハビリテーション科／整形外科）
6.ながら運動のすすめ…企画構成：冨岡勇貴（理学療法科） カンゴサウルス賞受賞!!…執筆：野田小百合（看護部）
7.ワーク・ライフ・バランス3年間の軌跡…執筆 野田小百合（看護部）
9.なになに？ハイブリッドリハビリテーション!!…企画：冨岡勇貴（理学療法科） 執筆：槌田義美（リハビリテーション部技術部長）
企画構成編集…坂本和歌子（総務課）